

○ ルーズハウジングはデンマークでは96%で実施—デンマーク農業理事会セミナー

デンマーク農業理事会は7日、東京プリンスホテルで「デンマークポークアカデミー卒業生研修セミナー」を開いた。ポークアカデミー卒業生と彼らを派遣した会社担当者を対象に開催したもので約60人が参加した。

開会に当たり小野澤鉄彦駐日代表は、「1987年当時、半丸を使わなくなった時代、工場でも半丸を扱ったことがない人が多くなる中で、どう半丸が部分肉になっていくのか、家畜解剖学など基礎的な理論と、現場を並行して勉強してもらう機会を作るためにポークアカデミーを始めた。こうした趣旨は、現在でも現場で必要と考える。今回は、原料豚肉について技術的な研修を卒業生とともに、送り出した企業の方を対象に実施したい」と、セミナー開催の経緯に触れてあいさつした。

セミナーでは、デンマーク農業理事会のカーステン・ラスムセン氏が、「日本向けに良質な品質を確かなものにするために（養豚、養豚場、食肉加工場、その他重要項目）」、デンマーク食肉技術研究所のラク・クリステンセン氏が、「肉の品質について（肉品質、色、保水性、食感、冷蔵および冷凍）」、デンマーク農業理事会のイエスパー・バレンティン氏が「肉中の残留物管理について（管理とその手法、デンマークでの残留物、その他諸外国での残留物、残留物に関する今後の展望）」と題してそれぞれ講演した。また、ティカン、デニッシュ・クラウンの両社から現状などについて報告が行われた。

ラスムセン氏（＝写真）は、日本向けの豚肉がどうやって生産されているか、さらにと畜場での対応を説明した。その中では、品種



では4年前にハンプシャー種の使用をやめ、現在はランドレース、ヨークシャー、デュロックの3品種を掛け合わせたいわゆるLWD

の三元豚を生産していること、抗生物質の成長促進剂的な使用が禁止されていること、13年1月から妊娠豚の係留が禁止されたこと（ルーズハウジング）、最も重要なことは生産者と顧客のコミュニケーションであることなどを説明した。特にルーズハウジングではEU27カ国すべてに義務付けされたが、デンマークでは96%で採用され、農場の統合の中で残り4%も実施される見通し。しかし、すべての国でできているわけではないという。

質疑では、将来に向けてEUで去勢が問題になる中で、インプロバック（動物用医薬品）の是非について質問が出され、ラスムセン氏は「将来的にやめるとの可能性はないわけではないが、現在の去勢をやめる計画は具体的にはない。インプロバックはテストを行い、実効があるとの知見は得ている。しかし、倫理的に雄である生体をホルモンで抑えることには問題もある」と、去勢をやめる計画はなく、インプロバックの使用にも否定的な考えを示した。

○ ミートコンパニオンが沖縄事業所を開設、「おきなわ和牛」の取扱い強化へ

ミートコンパニオン（東京・立川市、阿部昌史社長）は4月1日に、沖縄・南城市大里に沖縄事業所（小峰大所長）を開設する。同社は各産地と連携して全国の優良な銘柄牛を取り扱っているが、今回、沖縄ブランド「おきなわ和牛」「石垣牛」の取扱い強化に加えて、現地で「おきなわ和牛」を使った付加価値製品の開発・製造にも新たに取り組むため、南城市大里の沖縄県食肉センター内に事務所を置くもの。

現在、沖縄では県食肉センター敷地内に部分肉加工処理施設の建設が進められており、来年度から稼働が始まる見込み。ミートコンパニオンでは今回の沖縄事業所の開設を機に、牛部分肉流通の推進と、より良い付加価値製品の提供に力を注いでゆきたいとしている。

〔沖縄事業所〕所在地：〒901-1203 沖縄県南城市大里字大城1927番地、(株)沖縄県食肉センター内。電話：098-946-2750、FAX：098-946-7850。事業内容：部分肉加工・販売。